

「千葉県学校薬剤師会 学校薬剤師研修会 地域サポート事業」 平成 28 年度山武・外房薬剤師会合同研修会報告

外房薬剤師会学校薬剤師支部長
矢野恵子

平成 28 年 7 月 19 日午後 8 時、会員 28 名・学生 3 名の方々が集い、平成 28 年度山武薬剤師会・外房薬剤師会合同研修会が東金文化会館にて開催されました。

講師に、ファイザー株式会社健康増進推進部 泉水貴雄氏をお招きし「タバコを取り巻く環境の変化・防煙教育について」と題して、講演をいただきました。

日本人の喫煙率は、19.2%。成人男性 32.2%。成人女性 8.2%。年々減少しており、20%を切ったため、12.2%を目標に設定しました。残念ながら平成 22 年頃から減少は停滞気味とのことです。タバコは、成人死亡の主要な要因すべてに関係するといわれており、喫煙で寿命が 10 年短くなるといわれているにもかかわらず、やめられないのは有害性に対する認識不足もあるようです。すぐに症状が出るわけではないので過小評価されているのです。さらにタバコの成分であるニコチンには依存性があり、依存性の強さは、ニコチン>ヘロイン>コカイン>アルコール>カフェインの順になり、かなり強いといえますが、国家予算を考えると、タバコによる税収は 2 兆円を超えており、タバコ族議員の思惑もあるとのことでした。

タバコの規制に関する世界保健機関枠組条約 (FCTC) では、タバコによる健康被害を食い止めるべく、タバコの消費とタバコの煙に晒されることの減少を目的としています。この活動によりタバコの広告はなくなり、テレビや映画では、喫煙シーンがなくなってきました。

日本やフィリピンのように受動喫煙防止法がない国は珍しく、有名なアニメーション「ONEPIECE」のキャラクター「黒足のサンジ」は、日本版ではタバコを持っていますが、アメリカ版では、チュッパチャ

プスを持っているというように変えられています。

受動喫煙の害はよく知られてきましたが、タバコの煙は PM2.5 (微小粒子状物質) で、禁煙をしていない飲食店の空気は、北京並みの汚染度といわれています。タバコを消した後の残留物から有害物質を吸入してしまう三次喫煙 (サードHANDSモーク) も知られてきました。つまり分煙してもタバコの害は防げないということです。

今回は、禁煙外来についての講演もいただき、本年度より禁煙治療の対象が広がり 35 歳未満の人も治療が受けやすくなったようです。世間では電子タバコ (アイコス) が、流行ってきております。薬剤師としては、こちらの情報についても入手に心掛けないといけなと感じました。

「第 66 回全国学校薬剤師大会」及び 「第 66 回全国学校保健・安全研究大会」に参加して

千葉県学校薬剤師会
副会長 大野定行

「第 66 回全国学校薬剤師大会」及び「第 66 回全国学校保健・安全研究大会」が、10月27日・28日北海道札幌市において開催されました。

「第 66 回全国学校保健・安全研究大会」は、学校保健・学校安全に取り組む校内の組織体制を整備するとともに、学校・家庭・地域が一体となり、確かな学力・豊かな心・健やかな体の調和を重視する「生きる力」を育む教育の推進を目的に、「生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進—生涯にわたり、自ら心身の健康を育み、安全を確保できる子供の育成—」を主題に開催されました。

まず表彰式では、本県からいすみ市立太東小学校の学校薬剤師で当会常任委員でもある土橋ふみよ先生が文部科学大臣表彰を受賞されました。土橋先生、おめでとうございます。

開会式・表彰式の後、記念講演会が行われました。「子供たちの学校生活を護るための校内連携と他職種連携」～発達障害、被虐待経験を持つ子供たちを中心に～という演題にてこころとそだちのクリニックむすびめ 院長の田中康雄先生による講演がありました。

先生は児童精神科医の立場から、子供たちが抱えている課題、特に発達障害や被虐待児症候群について、教育と医療の連携の重要性と困難性について述べられました。教育現場では、「配慮を必要とする子ども」に重心を置きながらも、全体をまんべんなく視野にいれなければ成り立たない。また生徒との関わりに苦慮するだけではなく、保護者との対応にも心を込め、個々の学習向上に関わり続ける。医療現場では、これらの疾患の鑑別あるいはその重なりを持って生きている子供たちを診立てるのは難しい。にもかかわらず、医療者が安易に過剰な判

断をしているのも事実であり、「疾患＝障害者」のレッテルを貼られ、差別が生じる原因となっている。教育と医療をどのように連携していくか、教育が願う子どもの成長と、医療が目指す変化は、その接近法に多少の誤差はあったとしても、ゴールは同じである。相互に諦めずに関わり続けることで、折り合いがつけられ、子どもの生きる力を引き出していけるのではないかと述べられていました。

16時からは札幌パークホテルにて「第 66 回全国学校薬剤師大会」が「生涯を通じて心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進—信頼そして安全安心を担う学校薬剤師を目指して—」を主題として開催されました。

開会式・表彰式の後、「音楽のちから」と題して札幌交響楽団コンサートマスターの大平まゆみさんによる、バイオリン演奏を交えた特別講演がありました。

音楽には 2 つの力があるそうです。1 つ目は音楽を聴くと人は元気になる。2 つ目には音楽を聴くと思い出を感じる。自分がつらい時や悲しい時には、音楽を聞いたり歌うことで、乗り越えようとする力や楽しかった思い出などが湧き上がってくる。だから音楽は大切なものであり、生きていく上において必要なものである。私はその手助けを続けていきたい、と述べられていました。

2 日目は課題別研究協議会があり、10 課題に分かれて開催されました。私は第 7 課題の「喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育」に参加しました。

研究発表として、以下の 3 名の先生方の発表がありました。

- ① 奈良県立高取国際高等学校 教諭 岡本伸王
「喫煙防止教育に関する指導計画の作成、実施、

評価及び改善について]

喫煙した生徒への反省指導から、医療機関での医学的アプローチ（禁煙外来への受診）や喫煙しない生徒に対して、将来喫煙しないための健康面からのアプローチを行っている。嫌煙意識の醸成とそれによる人間関係の構築を図り、安心して快適に生活できる学校環境を整えていく取組について発表されました。

② 宮城県大河原町立金ヶ瀬中学校 養護教諭
鎌田百合子

「自己肯定感を高め、適切な意思決定や行動選択ができる生徒の育成をめざして」

正しい知識を理解させることだけでなく、自分を大切にす気持ちや様々な人間関係の中で、正しい判断・行動選択を行っていく資質や能力、実践力を育てる取組について発表されました。

③ 北海道上ノ国町立上ノ国小学校 養護教諭
三浦千晶

「専門機関や異校種と連携した教育活動の工夫・改善」

学校、保護者、地域との連携や発信、喫煙・飲酒防止教育での高校生ボランティアの活用によるロールプレイング等を通して、自ら適切な意思決定や行動選択をさせ、コミュニケーションスキルの向上とセルフエスティーム（健全な自尊心）を高めさせるための取組について発表されました。

3名の発表を聞いていて、学校薬剤師の存在はどこにあるのかという疑問を感じました。

学校薬剤師から防止教育を提案してもなかなか受け入れてもらえず、どうしたら良いかという質問が各先生方や指導助言者に多くありました。県、市の教育委員会や学校長へのアプローチを今後も進めていかなければならない必要性を感じました。

最後に、「ライフスキル形成を基礎とする喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育」の演題で神戸大学大学院人間発達環境学研究科 川畑徹朗教授による講演がありました。

一般的心理社会能力であるライフスキルが育って

いない青少年は、社会的要因の影響を受けて、喫煙、飲酒、薬物乱用を含む様々な危険行動をとりやすいことが明らかになっているので、ライフスキルの向上が教育に不可欠となる。そのためにはセルフエスティーム（健全な自尊心）の形成に主眼を置く必要がある。高いセルフエスティームは、「心の防御システム」として働き、困難な状況にあっても、危険行動や問題行動に逃避するのではなく、現実を直視し、自分の持っている資源や能力を活かしながら乗り越えようとする勇気をもたらす。学校で行われる喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育は、「生きる力」の形成に寄与するものでなければならぬと、最後に述べられておりました。

本大会は全国の学校薬剤師の先生方と交流でき、とても充実した大会でした。